



諏訪神社

鎮座地：館山市国分字天神前九六五



新調された大鳥居の社号額

祭神 建御名方神

宮司 黒川 彰

由緒

古くは天明七年の村鏡明細帳に「諏訪大明神」と記されており、諏訪神社は古来、国分村の氏神様（鎮守）で、明治四十一年には字荒戸にありましたが、その後昭和二年に近隣十一社（十一社か）の合祀により現在地に遷社されています。この時に建立された花崗岩造りの大鳥居は、姿、大きさともに近在にも稀な美麗なものでした。諏訪神社は氏子総代長をはじめとする責任三役等、氏子総代によってしっかりと管理運営されており、一七〇坪を誇る境内は、高張提灯、幟旗、大鳥居の社号額の新調、参道入口の看板等、近年年を追うごとに整備され区民の憩いの場となっています。

現在は二月第四日曜日（以前は二月二十七日）に執り行われている「御奉謝祭（おびしやさい）や、秋季例大祭では、鶴ヶ谷八幡宮より伝わったとされる生の奏楽演奏が地元の人々を中心に継承され、祭典を神秘的でより厳かにしています。神社の裏には知る人ぞ知る、遮断機のない可愛い「お宮踏切」があり、素朴な風景の中で守られてきた神社です。



厳肅に執り行われている「御奉謝祭」(おびしやさい)

- 例祭日 十月十日
- 現在は、
- 体育の日の前日の日曜日
- 本殿 神明造り
- 鳥居 明神鳥居
- 境内坪数 百七十坪
- 神事
- 一月：初詣祭
- 二月：御奉謝祭(おびしやさい)
- 七月：夏秋季例大祭
- 十月：秋季例大祭
- 氏子数 一三五五世帯

地域の自慢・青年団

国分地区の青年団は平成十二年頃までは、団員が少なく団員確保・増員が課題でした。そのため、何とか青年団を發展させ地域を盛り上げたいと、青年団の中心行事であるお祭りに団員一同一致団結して、衣装の作製、山車の整備、子ども達への温かい指導等、若い力を精一杯注いできました。現在では、二十人足らずだった団員も倍以上に増え、多くの学生や子ども達で溢れています。

「お祭りを通してこの地域を盛り上げたい」という熱い思いが正に原点であり、その情熱は若い団員や地元の子ども達に、伝統としてしっかりと受け継がれています。館野地区の芸能祭にお囃子で参加したり、最近では区の行事以外にも南総里見まつり等、市のイベント等にも積極的に参加したいと息を弾ませています。区や神社、子ども会ほか地域の多くの組織の理解協力の下、人と人との結びつきと助け合いで一丸となって逞しく目標に向かい進んで行く心意気は、孝子や義人の精神が現在も息づく自慢の仲間、そして地域です。



地域が一丸となって目標に向かって行く心意気を持っています

自慢の祭

国分地区のお祭りは、古くは地元国分村生まれの彫刻師、後藤喜三郎橋義信（行員福松）の彫物からなる明治二十年前後に制作された大天王（大神輿）でした。その後、明治四十五年（他地区より購入したとされる現在の山車のお祭りが始まっています。祭礼日は例年十月十日（十日まち）に開催されてきましたが、平成十二年からのハッピーマンデー制度の適用により、体育の日が十月第二日曜日になった事や近年の社会状況の変化に伴い、平成十三年からは秋季例大祭として、体育の日の前日の日曜日に祭典や山車の曳き廻しを行っています。

一時、数年間山車の曳き廻しのない時代がありました。昭和四十年代頃より復活し青年団が中心となって山車の運行等を行ってきました。近年、三年間の話し合いを経て、区、神社、青年団が理解協力し合い、平成二十五年の秋季例大祭より、地域が一つとなった区主催のお祭りになりました。修理、補修、大改修や新調が行われた自慢の山



夜遅くまでお囃子が響き渡ります



昔の国分祭礼。浴衣姿が懐かしい



青年團長に引き継がれる半纏



次代を担う子ども達は地域の宝

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただけます。ご教示賜りたくお願いいたします。